

保育園での異文化体験エピソード



その33 異文化を通して知る水の尊さ



先日、JICAの中西部アフリカ幼児教育研修のために約1か月間、精力的に研修をされた10名の研修生(セネガル・マリ・ブルキナファソ・カメルーンの幼児教育行政官や指導者等)が来園された日は、ちょうど年長児の芋掘りの日。そこで、一緒に楽しみました。芋掘りはアフリカでも珍しくないそうですが、収穫物を持ち帰って給食の準備をする子どもたちの所作を見て「なぜ2回も手を洗うの?」。土だらけの手を玄関先で洗い、給食の前(厳密にいうとトイレの後)にもう1回洗っていたからです。

活動の後や食事の前に(勿論トイレの後にも)手を洗う私たちの文化。所変われば、当前と思っていたことが驚きとして受けとめられること、アフリカでは地域にもよるそうですが、衛生的に十分な上水道はまだ貴重ということ子どもたちは学びました。

最近ニュースで度々話題になる「水ビジネス」ですが、21世紀は鉱物資源以上の価値が出てくるとも。子どもたちには経済や国策の話ではなく、水道の蛇口をひねると勢いよく出てくる「飲料水」が地球規模で考えたときにどれだけ尊いものか、しっかりと伝える必要があると感じました。

(菱川広昭/横浜市・おおつな保育園園長)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること(平和)を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか?!

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail: ans@zenshihoren.or.jp